公共図書館からみたがん相談支援センターとの連携の意義

2019年9月5日

北海道地区　図書館＆がん相談支援センター
連携ワークショップ

田村俊作
元慶應義塾大学(図書館・情報学）

私の話

1. つなぐ図書館：図書館がなぜ医療や健康に関わるのか
2. 図書館とがん相談支援センターが連携するとどんな良いことがあるのか

１．つなぐ図書館
公共図書館とは？

- 図書館法（昭和25年法律第118号）により設置
- 地方自治体（都道府県，市区町村）が設置する公立図書館と，公益法人が設置する私立図書館がある

公共図書館概況(2018年)

- 設置自治体数　1,380/1,788
- 図書館数　3,296館
- 蔵書数　449,183千冊
- 年間来館者数　333,683千人
- 年間個人貸出冊数　685,166千冊

日本の図書館統計　公共図書館集計(2018年)
http://www.jla.or.jp/Portals/0/data/iinkai/図書館調査事業委員会/toukei/公共集計2018.pdf (Accessed 2019-8-22)

公共図書館はどんな場所？

(1) 本のある場所

- 図書館は何よりもまず，本を読むところ
- いろいろな本が置いてあり，誰でも気軽に立ち寄って，好きな本を利用できる

秋田県立図書館

(2) 誰でも気軽に立ち寄れる場所

- あらゆるジャンルの本が置いてある。本の利用に目的は問わない
- 自治体が提供してくれるので，安心して利用できる

瀬戸内市民図書館

(3) 専門情報への全方位の入口

- 図書館に置いてある本は，読んでおもしろい本，教養や視野を広げてくれる本だけではない
- 私たちが生きていく上で必要な知識や知恵を教えてくれる本もたくさん置いてある
- 地図，旅行ガイド，料理の本，編み物の本，コンピュータの本，ガーデニングの本
- 専門情報を効率よく検索できるデータベースなどもある

当然医療や健康に関する本もたくさんあります

例えばこんな本やパンフレットがあります

- 病気の診療についてわかりやすく解説した本

  『患者さんのための乳がん診療ガイドライン』2016年版（日本乳癌学会編 金原出版 2016）

- 実際に病気にかかった人の体験記

  『乳がんと診断されたらすぐに読みたい本：私たち100人の乳がん体験記』（健康ジャーナル社 2014）

- 病気や薬について書かれたパンフレット

  『がんの冊子　がんと療養シリーズ206　もしも，がんと言われたら』（国立がん研究センターがん対策情報センター 2012）

- 食事の本，料理の本など病気に関連して必要になる情報を提供してくれる本
- さらには死に方や死んだ後のことについて書いた本も

  葬儀，遺産相続

公共図書館ではすでに健康・医療情報サービスがはじまっています

ー日本図書館協会健康情報委員会が2013年度に行ったアンケート調査からー

公共図書館における「健康・医療情報サービス」の実施状況

	回答件数	比率	
実施中	128	13.8%	15.4%
実施を決定し，現在，準備中	15	1.6%	
検討したが実施を見送った	17	1.8%	
実施するかどうか検討中	101	10.9%	
未検討	665	71.7%	
未回答	2	0.2%	
合計	928	100.0%	

サービスの効果と課題

効果

- レファレンスや案内がしやすくなった（81.3%）
- 図書館のPRができた（53.1%）

課題

- 専門知識を持つ職員の確保・育成が難しい（64.8%）
- 選書が難しい（57.8%）
- レファレンス対応が難しい（57.0%）

２．公共図書館とがん相談支援センター：それぞれの強みと弱み

(1) 公共図書館の強みと弱み

- 幅広く多様な情報を提供している
- 専門によって利用者を選ばない
- 敷居が低く，かつ安心
- 他の目的で立ち寄った人が「たまたま」情報に接する機会を提供できる

その反面

- 職員には市民の医療健康問題の解決を直接支援できる知識も資格もない

(2) がん相談支援センターの強みと弱み

- 専門家による信頼できる課題解決支援

その反面

- 漠然と医療健康問題を抱えている，といった一般の人には敷居が高い
- 一般の人にアピールするには，外に出て行くしかない

３．公共図書館とがん相談支援センターが連携するとどんな良いことがあるのか

(1) 公共図書館にとって

- 医療健康情報サービスの強力なサポーターとなってもらえる

  専門知識を参照可能になることにより，次のような運営上の課題解決に役立てられる

  ・どんな本を選べば良いのか？

  ・健康医療サービスに関する研修を行ない知識を深めたいが，適当な講師は？注意すべき点は？

- 医療自体に係わり，図書館では扱えない事案が起きたときに，紹介できる
  - ・患者の家族から医療相談を受けた
  - ← 顔の見える関係を作っておけば，相談者に適切に案内できる

(2) 相談支援センターにとって

- 病院の外にサービス窓口を作れる
  - 専門機関の敷居の高さ　→　あらゆる人々に，目的を問わずに開放している施設
  - 関心はあるが，わざわざ出かけるほどではない人たちに参加してもらえる
  - 土曜日日曜日にイベントが開催できる
  - 病院ではなかなかできないことができるかも？

(3) 広がる連携の輪

- 地域の多様な医療関係者が互いに連携することにより，地域で健康を守る態勢を作りうる
  - ・行政の担当者
  - ・病院の患者図書室
  - ・患者会

  等々，等々

医療健康情報の提供に関わる多様な活動については，以下のご発表で